

茗溪学園主催 公開シンポジウム2023

これからの

中等教育

～茗溪学園が実現したい成績評価とは何か～

2023年8月19日 土

9:30_{開会}～16:00_{閉会} (予定)

3期目となる今回は、生徒が本シンポジウムの組織委員会の中心メンバーとして企画に携わっています。「学びの評価」とは何のためにあるのか、どうあるべきなのか、生徒と教員が正面から議論を行います。ぜひ、会場にいらしていただき、ご質問やご意見をいただけますと幸いです。

プログラム

Part 1：生徒・教員セッション：私達が納得いかなかった/納得した「評価」

theme 1：これまでのアカデミアクラスにおける教育活動における評価の報告

theme 2：生徒からの教育活動とその評価に対する批判

Part 2：総合セッション：多種多様な評価の実現に向けて

theme 1：評価の意味についての批判的再検討

theme 2：生徒からの教育、評価の改善に向けての提案あるいは希望

theme 3：教員からの返答

主催：茗溪学園中学校高等学校

参加費用：無料

場所：つくば国際会議場 中ホール300 (3F)

※オンラインでの参加も可能です。※会場は110名先着です。

参加申込：Google Formsにて 8月16日(水)

までに申し込みをお願いいたします。

お問合せ：symposium@meikei.ac.jp

プログラム等の詳細については、本校HPにて随時更新していきます。

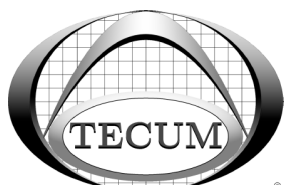


△ 申込み △

共催
NPO法人 TECUM

<https://www.tecumath.net/>

secretariat@flexcool.net



<https://www.meikei.ac.jp/>

symposium@meikei.ac.jp

029-851-6611



Meikei
High School

01 本シンポジウムの目的

評価 は、多少の違いはあるかもしれないが、基本的には
教員が出題した「問」（毎日の授業での課題、レポートの課題、試験、ゼミまで）に
対して、生徒が「解答」し、それを基準に基づいて採点、添削し、コメントなどを
「返却」する

という形式をとっている。生徒の立場にたってみれば、誰しものが「返却」されてきた結果を受けて、

- ・ その時点での自分なりに精一杯頑張った成果に対する評価が納得いかない。
- ・ それほど頑張っていないのに良い評価を受けてしまった。そもそもこの課題に意味があったのだろうか。
- ・ 毎回の課題に対して、その意図や意義が十分に納得できないため、頑張る気がおきない。
- ・ 課された（出題された）問自体が、日常の授業での問に対してギャップがある。

といった否定的な意見を抱いた経験があるのではないだろうか。しかし、評価がかえってきた後に、評価者である教員に対して、評価に対する自分の意見を述べる機会が用意されることはない。今回のシンポジウムでは、「評価される側である生徒」と「評価者である教員」がこれまでの教育活動の中で実施されてきた評価に対して、議論の場を設けること通じて、

「そもそも評価とは何なのか。そして、どうあるべきなのか。」

という難しい、しかし、これからの日本の中等教育を考える上では避けては通れない問の本質に対して、パネリストである生徒と教員はもちろんのこと、フロア/オンラインの参加者すら巻き込んで、接近を試みる。

02 本シンポジウムのプログラム詳細

1. (9:30~9:45) 開会の挨拶
2. (9:45~10:05) 開催趣旨説明
3. (10:15~11:45) 生徒・教員セッション前半：私達が納得いかなかった/納得した「評価」
 - (a) これまでのアカデミアクラスにおける教育活動における評価の報告
 - (b) 生徒からの教育活動とその評価に対する批判
4. (11:45~12:45) 昼休憩
5. (12:45~14:15) 生徒・教員セッション後半：私達が納得いかなかった/納得した「評価」
6. (14:25~15:35) 総合セッション：多種多様な評価の実現に向けて
 - (a) 評価の意味についての批判的再検討
 - (b) 生徒からの教育、評価の改善に向けての提案あるいは希望
 - (c) 教員の返答
7. (15:40~16:00) 総括講演